

情 報

野村研究室プレゼンテーション抄録

平成15年1月よりスタートした野村研究室プレゼンテーションは、今年度に入って30テーマとなり、2名の学外プレゼンターも参加した。発表テーマからは、明倫短期大学学術大会をはじめ、日本歯科医学会総会、日本歯科技工学会や日本補綴歯科学会にも情報発信できた。今後は、日本歯科技工学会雑誌や月刊誌「歯科技工」への掲載を予定している。

第22回：平成17年2月28日

コーヌステレスコープ・アタッチメントを クラスプ義歯に組み込んだケースの紹介

附属歯科診療所歯科技工室

阿部 雅子

症例は78歳の女性で、下顎局部床義歯の不適合と、下顎左側犬歯の硬質レジン前装冠前装部破折による審美不良で、義歯新製を希望していた。そこで、審美性を改善するために下顎左側犬歯にコーヌステレスコープ・アタッチメントを、また下顎右側側切歯に近遠心鉤を用いて唇側面に鉤腕の露出がなく審美的に優れている義歯を製作したので、紹介した。

この症例で、コーヌステレスコープ・アタッチメントの製作から義歯装着までの過程を体験できた。また、患者さんの要望を技工物に反映し、口腔内に調和した補綴物を製作することができ、診療室と技工室での連携の必要性を痛感した。

第23回：平成17年2月28日

発音を考慮した部分床義歯製作

歯科技工士学科専攻科 生体技工専攻5回生

塩田 孟紀

患者さんは70歳女性で、発音のし難さが主訴であった。上顎局部床義歯の口蓋被覆面積、適合等に問題があると考え、口蓋部分の形態、被覆面積が異なる3種類の咬合床を製作した。各々の咬合床について発音テストを行い、違和感が少なく、発音の容易な形態の咬合床を患者さんに選択してもらい、新製義歯の設計に反映した。

上顎には幅10mm、厚さ1.5mmのパラタルストラップ前縁を口蓋難壁後縁に一致させ、維持装置にRPIクラスプ、コンビネーションクラスプを用いた部分床義歯、下顎は総義歯を製作した。

新義歯の発音については、ことばクリニックの協力で

スペクトログラムによる音響分析を行った結果、有歯顎者と近似したデータが算出され、義歯新製により十分に発音の改善がみられた。

第24回：平成17年2月28日

研究用模型にシリコンを用いた臨床例 —治療義歯症例—

歯科技工士学科専攻科 生体技工専攻5回生

本田 岳史

総義歯製作時、アルジネート概形印象による石膏を模型材とした研究用模型の代わりに、技工用重縮合型シリコン印象材タイタニウム（セルマック社）を用いて使用義歯の粘膜面と研磨面の複印象を行い、研究用模型（UDシリコン模型）を製作した。その模型上で使用義歯の情報が再現、反映された個人トレーと咬合床の製作方法を治療義歯装着後の経過と合わせて報告した。UDシリコン模型を使用したことにより、患者さんが慣れ親しんだ使用義歯の情報を多く取り入れた技工物の製作ができ、さらに、診療時間の短縮と患者さんの負担減少を図ることが出来た。

第25回：平成17年3月7日

部分床義歯症例から学んだこと —臨床技工実習患者担当制—

歯科技工士学科専攻科 生体技工専攻6回生

松本 崇臣

症例は80歳男性で、義歯紛失による新製希望であった。未装着の期間が長く、装着感と負担軽減に配慮するために、舌感比較用にバータイプとレジンアップタイプの2種類の咬合床を製作し、設計に選択性を持たせた。それぞれの装着感には差が無く、義歯修理の利便性も考慮し、レジンアップタイプの設計とした。義歯床縁は歯肉と移行的に形成し、咀嚼時に食物の流れを妨げないように配慮した。

新製義歯装着により、どの程度咀嚼機能が改善されたかを、ピーナッツを被験食品として咀嚼の評価を行い、同時に歯肉と床縁の移行部について、粉碎粒子の貯留様相を目視により確認した。その結果から、義歯装着により咀嚼機能の改善が認められ、床縁の移行部の付着もなく、口腔機能の回復に十分な義歯であった。